

平成28年度 授業改善推進プラン 調布市立（第一小）学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ①「第一学校小学校学習規律について」を基に、発達段階に応じた学習規律を身に付けさせる。
- ②教科等の基礎的・基本的事項を繰り返し学習する時間の確保を行う。
- ③発達段階に応じた家庭学習の内容を工夫し、家庭での学習の習慣を定着させる。
- ④習熟度別指導や協力授業などを取り入れ、個に応じた指導を行う。
- ⑤毎時間の授業において、見通しをもったり、振り返ったりする活動を充実させる。
- ⑥小グループや学級での話し合い活動を設定し、自分の考えをもち、判断し、表現する学習活動の充実を図る。

【28年度「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容」】

国・社・算・理の4教科・4観点において、都の平均より算数の「関心・意欲・態度」が2.9ポイント、算数の「技能」で0.6ポイント下回ったもののその他の観点ではすべて都の平均を上回っている。特に、国語の「言語」、社会の「思考・判断・表現」「知識・理解」、算数の「思考・判断・表現」、理科の「知識・理解」は、都の平均を10ポイント近く上回っている。正答率が低い問題から分かる児童の課題は「解決する力」である。また、2つ以上の資料を読み、似ているところや違うところについて考えたことをまとめる力にも課題があることが分かる。各教科の指導において、学習のめあてを明確にさせた上で、文章や図表などから、その内容を丁寧に読み取らせ、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、取り出させたりするなどの指導の充実をさらに図っていく必要がある。国語は、段落ごとの内容を読み取り、段落相互の関係を捉えたり、内容を的確に押さえて要旨を捉える指導を積み重ねたりすることで「読む力」を高める。社会は、問題解決的な学習をさらに充実させ、社会的事象の理解を確かなものにし、それを活用して課題を解決する力を育成する。算数は、算数的活動を多く取り入れ、数量や図形についての豊かな感覚をもたせるとともに、問題を的確に読み取り、問題解決型の学習を通して数学的な考え方が身に付くように指導を行う。理科は、体験的な学習を重視し、実験・観察の結果が実感を伴ったものとなるような手立てが必要である。また、いくつかの実験結果を関連付けて結論を導き出す力を高める指導の工夫を図る。

【授業改善の方針・目標】

「児童一人一人の学ぶ力を育て、確かな学力の定着に努める」

【授業改善のための具体的な取組】

- 国語**：どの学年においても音読や漢字の書き取りに日常的に取り組むとともに、読書活動と単元の学習を結び付けて基礎・基本の定着を図る。また、用語やスキルなど教えるべき内容と考えさせる内容を整理して指導にあたる。
低学年では主語述語の関係等文章の基本や表記をしっかり押さえ、話の順序に気を付けて文章を捉え、また自ら表現できるようにする。
中学年では段落ごとの要点を読み取るとともに、段落相互の関係に注意して表現できるようにしていく。
高学年では主題や要旨を的確に捉え、文章構成や表現の効果を考えながら表現できるようにする。
- 社会**：問題解決的な社会科学習を展開する。そのために、①くらしとの関わりがより深い教材を選定し、体験的な活動を取り入れる。②調べた事実をもとに考え、表現する活動を取り入れる。
中学年では、見学、調査などの体験的な活動を効果的に設定し、そこから生まれる児童の疑問や思いを大切に授業を展開する。地域における社会的事象を観察・調査するとともに、地図などの資料を効果的に活用できるように基本的知識の定着を図り、47都道府県の名称や位置や特色を理解できるようにする。
高学年では、具体物の提示や写真資料・VTR資料などの適切な場面での活用を通して、社会的事象を正確に捉え、課題意識を高めていく。自分の考えを記述や発表などで表現する活動を意識して設定し、互いの考えを深められるようにする。
- 算数**：少人数展開ができる良さを活かし、学習状況に応じて習熟度別指導を取り入れ、個々の実態に即した手立てがとれるようにする。特に、基礎学力の定着が不十分な児童への支援を重視する。また、算数的活動を多く取り入れ、数学的感覚を豊かにする。
低学年では、主に具体物を用いた活動を通して量感を豊かにするとともに、整数の加法・減法及び乗法の意味を理解し、繰り上がり繰り下がりの計算や九九が確実に身に付くよう、繰り返しの学習を重ねていく。
中学年では、主に四則計算の意味とスキルを確実に身に付けるとともに、分数・小数の意味や表し方を理解する。また、整数の乗法が確実にできるようにするとともに除法についてその意味を理解し、問題に応じて適切に計算を用いることができるように多様な考え方を学び合う学習を大切にしていく。
高学年では、主に分数・小数の乗法・除法が確実にできるようにその意味を理解し、問題に応じて適切に四則計算を用い、それらを組み合わせて答えを求めるなど、既習事項を生かしながらよりよく学び合う学習を積み重ねる。
- 理科**：問題解決型の理科学習を展開する。どの学年においても、実感を伴った理解を図ることを大切に、体験活動を通して、科学的な見方や考え方を養ったり実験器具の扱い方を身に付けたりする。また、観察や実験から得られた事柄を整理したり考察したりする中で、考えを深め合う活動を大切にする。また、実験においては安全に留意させ、理科に対する興味・関心を高める。
中学年では、主に様々な観察・実験の中で比較したり関係付けたりしながら調べる視点を学び、科学的なものの見方の素地を養うようにする。
高学年では、主に現象の要因や規則性について考え、条件制御したり推論したりしながら確かめる力を養っていくようにする。また、自分の考えを図や表を用いて表現し、交流するようになる。
- 生活**：具体的な活動や体験を通して、自分と身の回りの人々や自然、社会とのかかわりについて気付いたり考えたりできるようにする。また、その気付きや考えを言葉や絵、動作など様々な表現方法で表していくようにする。
- 音楽・図画工作・家庭**：基礎基本の定着を図るために、創作過程での交流や作品を鑑賞し合う場を大切に、言葉や絵、演奏など様々な表現方法を用いて自分の思いや考えを説明する活動を取り入れていく。
- 体育**：体育を中心に校内研究を行い、授業を基礎・基本から見直し、児童の運動に対する興味・関心を高め、学び合う楽しさを味わわせる。体力テストの結果を踏まえ、コーディネーショントレーニングを取り入れながら、特にボールの基本的な扱い方を丁寧に指導したりす

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- ・1年間に行う7回の研究授業を通して、講師の方々から御指導・助言いただいたことを日常の授業に生かし、その成果を児童に還元していく。2学期に実施する、児童の意識調査の結果や、校内研究に対する内部評価を踏まえ、より良い授業改善の方法を考える。
- ・管理職による授業観察を5～6月と9～11月、1月～2月に行い、参観後に評価を授業者に伝え指導を行う。また、OJTとして授業者は授業日時を職員室黒板に掲示し、教員同士が互いの授業を見合い、学び合う場としても機能するようにする。